

1 シラバスとは

「シラバス」とは、カリキュラムを構成する各教科・科目などについて、目標、内容、教材、学習指導計画、評価の概要などを記載した計画書のことをいいます。作成の対象には、総合的な学習の時間、ホームルーム経営、学年経営、学校経営など、各教科・科目以外の領域も含まれます。シラバスは、すでに大学などでは一般的になっていますが、最近では、高等学校においても作成の動きが広がっています。

シラバスは主に生徒向けに作成するものですが、指導方針が生徒に伝えやすくなるなど、教師にとっても役立つ資料です。また、学校の教育活動の内容を保護者や地域の人々などに対して説明する際にも利用できます。

シラバスの果たす役割を対象別に示すと、次のようにまとめられます。



シラバスの果たす役割

(1) 生徒に対して、学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促す。

活用例：学習のガイダンスや生徒の学習の振り返り

(2) 指導目標（あるいは評価規準）、評価の観点、評価方法を明確化し、学習指導の工夫改善に生かす。

活用例：単元（内容のまとめり）の指導目標、授業の進度、評価方法などの確認
：教師間の共通理解

(3) 保護者、地域の人々に対して説明責任*を果たし、学校への信頼を高める。

活用例：地域の中学校の生徒や教職員向けの学校説明
：学校のホームページでの公開

[補足] 「説明責任*」について

高等学校設置基準の一部改正（平成14年3月）が行われ、保護者や地域の人々に、学校の教育活動の目的、内容、方法等をわかりやすく説明することはもちろんのこと、学習指導の成果に対する点検や評価についても説明責任が強く求められています。

2 学習指導計画とシラバスの関わり

学習指導計画には、従来の年間指導計画のほか、単元または1単位時間の指導計画や学習指導案などがあります。小・中学校においては、1週間単位の週案などが広く用いられています。シラバスは、それらのうち特に年間指導計画との関連を図ることが重要です。両者とも指導計画の概要という点は共通していますが、年間指導計画が教師用の指導計画であるのに対して、シラバスは生徒向けの学習計画、保護者・地域の人々向けの説明用資料である点に違いがあります。

なお、「県立学校における指導の指針（平成15年3月）」には、「シラバスの作成や年間指導計画の改善等を通じ」、「指導と評価の一体化を図る」ことの重要性が述べられています。また、「指導目標や評価規準*の明確化に努める」とも示されています。

年間指導計画については、単元（内容のまとめり）ごとに、指導目標や評価の観点及び評価方法の関連を意識できるような形式を工夫することが大切です。これに対して、シラバスについては、学習のねらいや到達目標、学習内容、学習の進め方、学習の振り返りのポイントなどを明記することが重視されます。このようなことから、シラバスの作成を進めるにあたっては、年間指導計画もあわせて改善すると効果的です。

次ページには、年間指導計画を見直す具体的なポイントを例示しました。

[補足] 評価規準*

評価規準は、生徒が学習を通して身に付けるべき資質や能力の質的な側面を表現したもので、原則としておおむね満足できる状況を表します。これらは、生徒の学習活動に応じて、「…しようとする。」「…している。」「…する。」など生徒の学習状況を見取りやすいよう記述するのが一般的です。

平成15年9月、国立教育政策研究所教育課程研究センターより、各科目の指導内容のまとめりごとに「評価規準」及び「評価規準の具体例」が示されました。今後は、これらの資料を参考にして、各学校ごとに具体的な到達目標を設定したり、評価規準と関連付けながら、適切な指導方法及び評価方法を工夫していくことが求められます。

評価規準に関する参考資料
高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について
(平成15年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

[資料] 年間指導計画表の改善について

シラバスとの対応関係や学習指導と評価の改善の視点から、具体的な工夫改善のポイントを例示しました。

平成15年度 **国 語** 科 学習指導年間計画表（改善前の例）

科 目	単位数	使用教科書名			学年・組	担当者氏名	印
国語総合	4	国語総合（ 社 ）			年 組		
学 期	1 学期	2 学期	3 学期	年 間	教科書以外の教材等		
予定時数	5 2	5 5	3 3	1 4 0	資料集 国語便覧（ 出版 ）		
実施時数					古典文法（ 出版 ）		
学 期	月	予定 時数	単元・教材名	指導内容(指導のねらい)	実施 時数	実施状況 ・反省	
1	4	1	ガイダンス	・国語総合の特徴と学習方法について理解させる。			
		4	随想「伝えたいと思うから」	・随想を読み、筆者の主張を読み取らせる。			
		3	古文入門 「児のそら寝」	・繰り返し朗読して、古文の面白さを味わわせる。			
		3	「絵仏師良秀」	・歴史的仮名遣い、活用と活用形、係り結びの法則を理解させる。			

(1) 教科の指導の基本方針について

「評価の4観点(国語科は5観点)」、「指導と評価の一体化」の考え方を明確に打ち出すことが大切です。

改善例 1 指導と評価についての基本方針を記載する欄を新たに設定し、矢印の部分に位置付ける方法が考えられます。

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 ・伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばす。 ・心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めさせる。 ・国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
指導形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことについては、グループ活動を積極的に取り入れる。 ・書くことについては、インターネットの利用にも取り組ませる。
評価の観点の趣旨	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。</p> <p>【話す・聞く能力】</p> <p>自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞きとったりする。</p>

	<p>【書く能力】 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。</p> <p>【読む能力】 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。</p> <p>【知識・理解】 表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。</p>
評価方法 工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期テスト以外に、グループ活動や個別の学習の過程や成果を見る材料としてワークシートを重視する。 ・生徒の自己評価・相互評価のシートは、生徒自身の学習の振り返りに生かす他、成績の参考資料とする。

(2) 学期・月・単元（内容のまとめり）ごとの指導計画の項目について

学期・月ごとの学習内容の配分を示すだけでなく、単元ごとに、目標(ねらい)、具体的な評価項目、指導上の留意点を対応させる必要があります。

改善例2 「単元・教材名」

- ・学習内容、活動がイメージしやすいように、題材名を記載するだけでなく、主な学習のテーマや活動形態などを示す。
- ・「学習内容、学習活動」に関する項目に改める。

改善例3 「指導内容（指導のねらい）」

- ・到達目標などを示す。
- ・「評価」に関する項目に改め、評価規準の具体例などを示す。
- ・国語では、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」、「言語事項」の中から、単元で重点的に取り扱う領域（及び関連領域）を新たに欄を設けて明示する。

改善例4 「評価」

- ・「評価規準の具体例」、「評価場面及び評価方法」などを記載する欄を新たに設けて明示する。
- ・提出物や小テストなどの評価方法を具体的に示す。

(3) 参考資料について

千葉県の教育庁学校指導部指導課の通知（平成14年10月29日付け教指第1234号）と参考事例を Web サイトで見ることができます。シラバスと学習指導計画の関連等を検討する際の参考になります。

学習指導計画に関する参考資料
 千葉県教育委員会 「高等学校シラバス参考事例集」
<http://www.edu.pref.chiba.jp/zigyousylmain.htm>

3 シラバスの内容について

シラバスには定まった形式はありません。作成にあたっては、各学校の現状や課題をふまえ、活用しやすい形式を決定する必要があります。

(1) 主な記載内容について

シラバスに記載する内容は、学校ごとあるいは教科ごとに工夫し、教師間の共通理解を図ることが大切です。

学習のねらい、到達目標、具体的な評価項目について

各教科・科目の目標については、学習指導要領に示されています。また、評価については、いわゆる「評価の4観点」の趣旨をふまえ、評価規準などを用いて、目標に準拠した評価を行います。

シラバスに指導目標や評価規準などを示す際には、記載項目を精選したり、表記を生徒向けにしたりするなど工夫して、生徒が到達目標や学習の振り返りのポイントをとらえられるようにする必要があります。

評価方法について

評価については、四つの観点ごとに適している評価方法が異なっているので、評価の場面や時期などに応じて、適切な評価方法を取り入れたシラバスを作成することが大切です。

たとえば、評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価が重要です。また、評価の時期としては、学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫することが考えられます。さらに、具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用い、その選択・組合せを工夫することが大切です。これらのうち、テストや提出物は、生徒にとって最も関心の高い評価方法です。テストの計画や提出する課題を生徒に示す場合には、生徒が取り組むべき具体的内容を明示することが大切です。

学習内容・学習計画について

学期、月、単元のまとまりごとに、学習内容をわかりやすく示すことが大切です。学習のねらいや到達目標などの項目を位置付け、学習内容との関連を明らかにすることも重要な視点です。

シラバスは年度初めに示するのが一般的ですが、年間指導計画と実際の授業の進捗にはずれが生じることがあります。その場合には、学期を一つの単位ととらえて、授業の進捗を修正し、学期ごとに学習計画を配布する方法もあります。

(2) 参考資料について

先進的に取り組んでいる学校の事例だけでなく、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府などの各教育委員会などが作成した形式もWebサイトで見るができます。

シラバスに関する参考資料

- ・ 埼玉県総合教育センター 「シラバス」
http://www.center.spec.ed.jp/c/cb_ctn.html
- ・ 千葉県教育委員会 「高等学校シラバス参考事例集」
<http://www.edu.pref.chiba.jp/zigyousylmain.htm>
- ・ 神奈川県立総合教育センター 「高等学校シラバスの作成」
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/karisen/syllabus/index.html>
- ・ 大阪府教育センター 「指導と評価の年間計画(シラバス)」
<http://www.osaka-c.ed.jp/kak/kyoka/shirabasu/nenkankeikaku.htm>

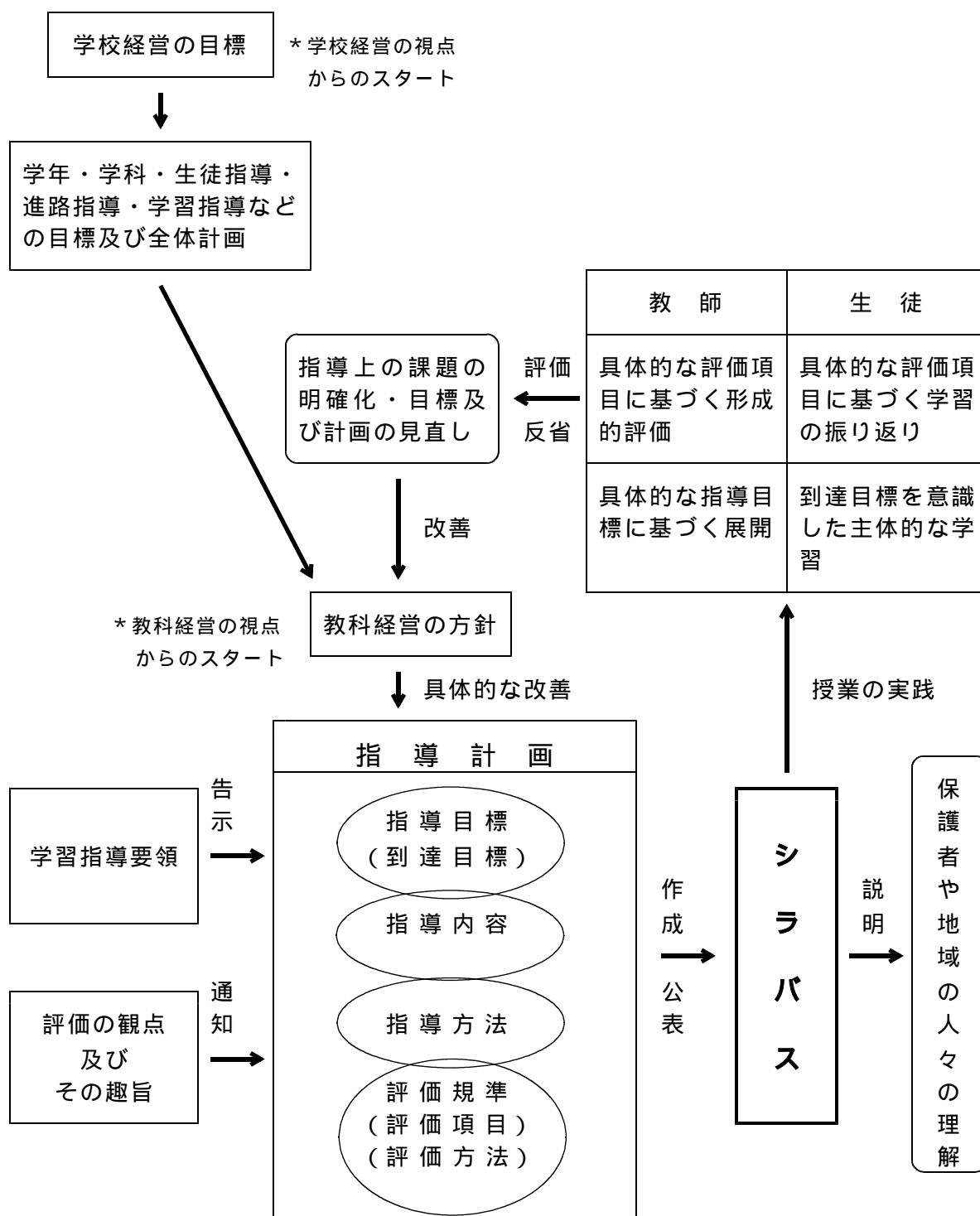
(3) 作成及び活用の手順について

シラバス作成及び活用は、それ自体が学習指導を改善する過程の一部となります。

また、学校経営の視点から、シラバスの作成や活用を通して学習指導の成果に対する評価を行い、その結果をまとめて情報を公開するなどして、保護者、地域の人々に対して説明責任を果たすことが大切です。また、教科経営の視点からは、生徒の主体的な学習を促すことや、教師間の共通理解を深め教師一人ひとりの指導力の向上を図ることなどが重要です。

次のページに示した「シラバス作成・活用の全体像」をイメージしながら、シラバスを作成し、実践を通して効果的で活用しやすいものに改善していくことが大切です。

シラバスの作成及び活用の全体像



(4) シラバスの評価について

シラバスを評価する際には、教師による評価だけではなく、活用の主体である生徒による評価も大切です。シラバスの評価方法や評価項目を明らかにしておくことが必要です。

シラバスの評価方法及び評価項目（例）

【教師の評価】

評価方法：年間指導計画表の評価及び反省、ガイダンスにおける生徒の反応、学習相談等の面接、提出物の評価、テストの結果（平均点、理解の十分な生徒の把握、理解の不十分な生徒の把握）、学習状況を把握するためのアンケートや調査

年間指導計画表やシラバスに示した内容について、教員間で共通理解が図られているか。

- ・主な指導内容
- ・指導のねらい、評価規準、到達目標
- ・評価の基準や方法
- ・副教材の扱い、提出物（レポートや課題等）
- ・テストの範囲や出題方針

シラバスを生徒に説明し、その内容を確認させる場面を設定しているか。

おおむね計画どおりの進捗で授業が行われているか。

レポートや課題等が生徒に理解され、計画どおり提出されているか。

テストの範囲や出題方針などが生徒に理解され、設定した到達目標が生徒に意識されているか。

生徒が十分な家庭学習の時間を確保しているか。

生徒が計画的に家庭学習を進めているか。

【生徒の評価】

評価方法：自己評価票（ワークシートを含む）により判断する。

授業の方針や進捗が把握できたか。

テストの範囲や出題方針、提出物を確認し、学習の到達目標を意識しながら授業を受けることができたか。

家庭学習で取り組む必要がある課題などが把握できたか。

テスト前やふだんの日に、家庭学習の計画を立てるなど、主体的に取り組むことができたか。